

県体雑感

高教組委員長
竹島久美



五月十九日から三日間に渡って高知県高等学校体育大会が行われました。春野運動公園ができてから、多くの競技の会場が春野に移っています。お町の方では以前ほど応援の高校生を見かけないかもしれませんが、春野運動公園付近は生徒の出席をとる時間帯は送り迎えの車で大渋滞です。

私も、応援生徒引率は、このところしばらく春野です。大勢いる各校の生徒たちを眺めていましたが、見えるか見えないかギリギリの短いスカートの女子生徒を以前ほど見かけなくなりました。私に減危懼種、三年生にわずかに残るのみとなっています。生徒がおとなしくなったのか、流行が変わってきたのか、各校のしめつけが厳しくなっているのか、よくわかりませんが、県体の話題からははずれます。

が、県教委の方が言うには、授業はどこもわりと落ち着いているとのことですが、ある大学の先生に聞いた話では、あまりに経済状態が悪くなっている非行に走れる、大変なところまられた生徒で、大変なところはそれもできないとか。

いる部にも光を当ててくれていた。が、文化部長の部からは、運動部ばかり大きく取り上げてほしいという声も聞かれます。二〇二〇年には文化部のインターハイと言われる全国高等学校総合文化祭が高知で行われることでもし、部活動をめぐっては、ブラック部活という言葉ができるほど、生徒や教員の負担が大きすぎる部もあります。文科省や県教委も休業日を設定するようになど、改善に乗り出しています。が、合意を作っていくのはなかなか大変なように思われます。



帆傘抄

小澤 幸泉

立ち止まりまた振り返り半世紀
待て待てともう半世紀過ぎました
義兄の夢戦さの波にのみ込まれ
石ころの転がる先が神の国
座り心地良くて二人は離れない
今日から二人で旅に出ませんか
何事もなかったように今日も暮れ
酒飲んで十八年と三ヶ月

花蘇鉄の四季

M・Y

一月 ぎごちなく太宰握る孫二歳
二月 早春の光まぶしき朝の寝床
三月 石段の崖に葉の花咲き乱れ
四月 退院のわれを迎へる襟道
五月 裏山の稜線いよよ夏に入る
六月 紫陽花に浴うて病友訪ねけり

花園

西村雅人

「今日は疲れたから明日にしてくれ
おまんだけやつちやるさ」
電話の聲はかすかすしていた

翌日 その理髪店に行く
花の香りがたがだよつていた
でもそれは「シャンプー」香水などの
人間の作つた匂いではないように思われた

香りを切るハサミは遅いし
話しかけ消え入りそうだし
「おまんが最後の客じゃ」店主が言ったよ

驚愕の中で
「はよう良くなったか」
おろおろ店を出た

生の終わりが近づくと
人はまた花の香りを
三角屋根の理髪店を残して
店の主はこの世を去った

命の最後のひとしづくを
私髪を切つてくれた
店主は何を思っていたのだろう

ひよつとすると
あのとき彼は
もう半分はこちから最後の仕事をしながら
心ゆくまで満喫し
天上の香りをかきしれない

「岡上淑子コラージュ展」はるかな旅に寄せて

山本晶子

教え子のお母様なる縁にて開展式にわれら招かる
平成の開塞感を吹き飛ばす作品「ロブげ」の巨大なる脚

五千人の来館者目標 七千人足運びしと容士くん聞く

上に立つ人

田上悦子

寒天で作りし露をあげさいへ和菓子を習う母親大会
人気なき山は万緑 ひびくのはキキキヨキキヨとらぐいすばかり
明白な嘘をしゃあしやあ繰り返す上に立つ人平成末期

九条は今こそ出番

五月三日、浅井基文氏講演に学ぶ

叶岡淑子

国同士ウインウインの努力こそ二十一世紀世界の潮流
侵略と侮蔑の歴史直視してアジア和平に資するべき日本
希望ある未来社会へ九条は世界の宝 今こそ出番